

企画者：奥能登すず地区活性化委員会／有限会社エステル

評価点：能登半島の最先端に位置する遊休地を活用し、椿、百合等の樹木・草花 1,200 本を植栽する企画である。椿の植林、百合の栽培による里山の整備を、地元高齢者と障がい者の自立につなげる“かほりが絆ぐまちづくり”に取り組もうとする点などが評価された。

日本アロマ環境協会賞

かほり「絆ぐ」まちづくり



石川県珠洲市唐笠町付近

■計画地



里山 さとやま



里海 さとうみ



里宇宙 さとぞら

計画図



この企画テーマ

能登半島の最先端に位置し、三方に日本海をのぞみ、椿が群生する緑豊かなところです。椿の保全と活用、百合の栽培活動を通してサポーター支援による地元高齢者と障がい者の自立を目指します。

"かほりが絆ぐまちづくり"

椿の里に百合かほるまち。人と人が支え合い共に働くことで絆を結ぶ。"かほり"がコミュニティを作ります。



椿「ツバキ」 500本(移植)



カサブランカ 300株



ササユリ 300株



ラベンダー 100株

■この企画のねらい

【地元は自生・群生する椿の活用を模索していた。】そこで、椿の商品化を思い立つ。

椿を移植し、椿の実を採取、椿油を精製、その椿油を原料に石けんを製造。→椿石けんの製造・販売を目指す。

この地域の原料を用いた商品づくりを地元高齢者、障がい者と取り組む→ソーシャルファーム(社会福祉)をスタートさせる。

不足している労働者を都会から確保し、そのサポーターと地元の人たちが共に作業する。

"みどり(椿)かほり(百合)"を媒体に強い絆を結ぶことで、人と人が支え合うコミュニティをつくる。

**"百合香る椿石けん"の製造販売により、今後の活動費を充てん、椿の植林、百合栽培の継続を目指す。**

■この企画の効果

- 1.遊休地(ハーブファーム)を活用し、その生産性を上げることができる。
- 2.椿の植林、百合の栽培により里山の整備ができる。
- 3.高齢者、障がい者の雇用を創出できる。
- 4.癒しを求めている都会の企業人に農作業を通じて精神的な回復と充足を与える。
- 5.不足している労働力を都会から確保できる。

現況写真

